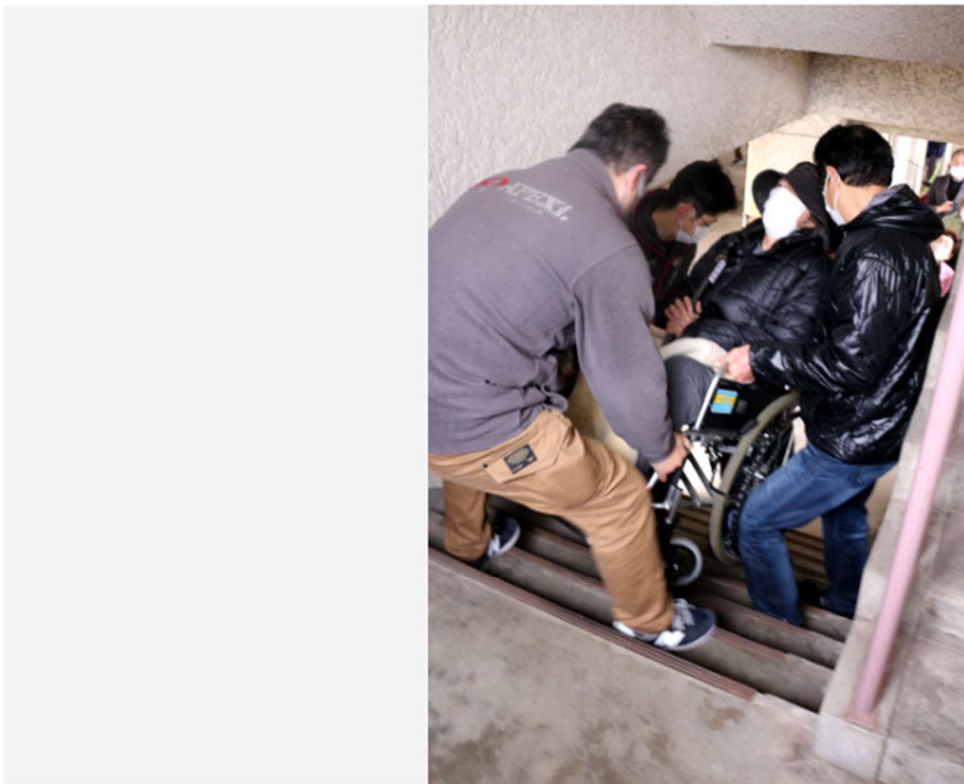


○別府市南部地区、初の全域防災訓練 南海トラフ地震を想定



避難者への対処をする医療従事者＝別府市中島町の畑病院関連施設



車椅子利用者の階段での避難を確認する地域住民ら＝別府市千代町

【別府】別府市南部地区（浜脇、南両地区）で15日、南海トラフ地震を想定した防災訓練があった。要支援者を含む地元住民ら約630人が参加。それぞれ避難行動や対応などを確認した。南部地区全域の防災訓練は初めてという。

南部ひとまもり・まちまもり協議会の主催。誰一人取り残さないという「インクルーシブ防災」に取り組む市や市民団体などと連携した。

午前10時50分に地震が発生した一との想定。住民は自宅から事前に決められた避難所へ。海拔の低い南地区では津波災害を考え、避難可能な高層のビルやマンションなどを確認。入り口や階段の位置、車椅子利用者の垂直避難についても確かめた。

同協議会の木下勇事務局長（74）＝千代町自治会・自主防災会長＝は「それぞれの防災意識を高められた。備えることはいろいろあり、定期的に取り組んでいきたい」と話した。

南部の隣接地区にある畑病院（中島町）は15日、防災訓練を実施した。関連施設に避難者の救護所を開設し、南部地区から避難した新型コロナウイルス感染者や障害者らを受け入れる対応を確認した。